

令和5年度山形市森林整備推進協議会議事録

- ・日時 令和5年7月3日（月）午前10時30分～
- ・場所 山形市役所10階 委員会開催室

- ・出席者

森林整備推進協議会委員15名

庄司稔委員、松田賢委員、平間利一委員、廣田慶子委員、志田ふみ委員、
江口義幸委員、多田千尋委員、会田幸子委員、佐藤良造委員、中野信吾委員、
小川三四郎委員（オンライン参加）、白壁洋子委員、新関文子委員、益田健太委員、
横倉肇委員

事務局8名

吉原農林部長、石岡森林整備課長、武田課長補佐、庄司林政係長、松田林道係長、
田澤森林整備係長、林主任、伊藤主事

- ・傍聴者 なし

1 開会

2 市長あいさつ

3 委員並びに職員紹介

4 協議

（1）会長、副会長の選任について

- ・会長、副会長の選任に先立ち、事務局より仮議長に庄司稔委員を指名した。
- ・仮議長が議事録署名人に志田ふみ委員、佐藤良造委員を指名した。
- ・会長、副会長の選任について事務局案として会長に中野信吾委員、副会長に庄司稔委員を提案し、会長に中野信吾委員、副会長に庄司稔委員が選任された。

（2）令和5年度森林整備課事業概要について

資料1に基づき、事務局より説明。

以下、質疑応答

【委員】

木質バイオマス需要拡大支援事業について、薪ストーブ等の設置の補助枠がゼロカーボンシティ貢献枠と一般枠に分かれているがどのような違いがあるか。

【事務局】

これまで是一般枠のみで、定員を上回る応募があるときは年1回抽選を行い補助対象者を決定していた。令和4年から新たにゼロカーボンシティ貢献枠を設け、市産材利用拡大促進事業または県で認証している省エネ健康促進住宅補助事業に該当し薪ストーブを設置した方

は、抽選の枠から外し先着で交付できるようにした。それにより、一般枠の倍率を抑え、より補助金対象者が増える形で取組を行っている。

【委員】

幼児への積木贈呈事業について、贈呈している積木の材質はなにを使用しているか。また、その積木は市内の業者さんで作ることができるか。

【事務局】

現在、贈呈している積木は山形市産材の杉材である。委託製作を行っており、山形木材業組合に業務委託している。

【委員】

林業専用道を開設する際に伐採して得た木材はどのように使用しているか。

【事務局】

現在開設作業を行っている王地向線を例に説明。伐採している木を搬出している県森連にA材、B材、C材、D材に区分していただき、売れる場所に持って行っている。具体的にA材は天童の共販所、山形木材業組合、東根の今野製材所に持って行っている。B材は協和木材、セイホク、山形木材業組合に持って行っている。C材、D材は山形ウッドエネルギー、山形バイオマスエネルギーに持って行っている。

【委員】

市産材安定供給にむけた森林整備促進事業について、今年の計画が間伐だけになっているが主伐は行わないのか。

【事務局】

補助金の対象となる事業が民有林の間伐の部分のため間伐だけの記載になっている。令和5年度の主伐の計画については山形地方森林組合で蔵王成沢と妙見寺であり、主伐後の再造林を含めた計画を立て、進めていると聞いている。

【委員】

主伐はどのくらいの面積になるか。

【事務局】

蔵王成沢で約1ha、妙見寺生産森林組合の森林で約3haを予定している。

【委員】

市産材利用店舗等内装木質化支援事業について、補助金申請の受付期間はいつまでか。

【事務局】

現在、要綱策定の段階で総務課と調整中だ。補助金の額としては、当初予算に90万計上しており、30万×3棟分交付予定です。要綱完成次第、2月末までを申請の期間とする予定。

【委員】

高齢化に伴って森林境界確認が難しくなっている中で、リモートを活用して境界確認を進めるということだが、具体的にどういうものか。

【事務局】

森林境界の確認はリモートセンシングで行う。リモートセンシングはドローンを使って境界確認をするもので、昨年引き続き進めていきたい。

【委員】

山形市産材利用拡大促進事業について、令和4年度の実績が29件ということだったが、この29件は木材をどのように利用していたか。無垢材なのか。集成材なのか。

【事務局】

無垢材を使用し、集成材は利用していない。

(3) 山形市の建築物における木材利用の促進に関する基本方針の策定と山形市産材利用拡大連携協定について資料2、3に基づき、事務局より説明。

以下、質疑応答

【委員】

山形市の建築物における木材利用の促進に関する基本方針について、公共建築物の木造化、木質化を進めるとあるが、実際候補はあるか。

【事務局】

現在、公共建築物の代表として山形市民会館が挙げられる。山形市の保育園についても新築する予定があるので、市産材を利用した木質化を進めてもらうため担当する課に積極的に働きかけていく。

【委員】

公共建築物の候補として山形市民会館、山形市保育園を挙げたが、木造化、木質化の実現のための具体策は山形市産材利用拡大連携協定の協議会のなかで決めていくのか。

【事務局】

協議会では、公共建築物というよりも民間建築物の木材利用促進について具体的に議論していきたい。公共建築物についても市の会議で働きかけや基本計画にも盛り込んでいく。

【委員】

山形市市産材のブランド化について、山形市民の市産材に対する認知はどうか。認知している感触はあるか。

【事務局】

山形市産材ブランド化検討委員会でも山形市産材の認知度不足は課題として挙げた。認知度向上のためブランド名をつける案が出され、公募をもって市産材のブランド名をつけていきたい。また認知度向上のためには市産材に係る事業を実効性あるものにし、より市民の方、市民以外の県民の方が市産材に触れる機会を増やしていくことも重要と考えている。実際、山形駅東西自由通路の木質化も完成し、これを契機にますます進めていきたい。

【委員】

木の良さを伝えるために、情報の発信や人材育成が大事になってくる。木の良さや木の使い道を若い人たちに伝えるための人材育成を進めていってもらいたい。

【事務局】

小さいときから木に親しむ木育や川上、川中、川下で連携しながら人材育成を進めていきたい。山形市産材利用拡大連携協定の協議会でも検討していく。

5 その他

6 閉会